



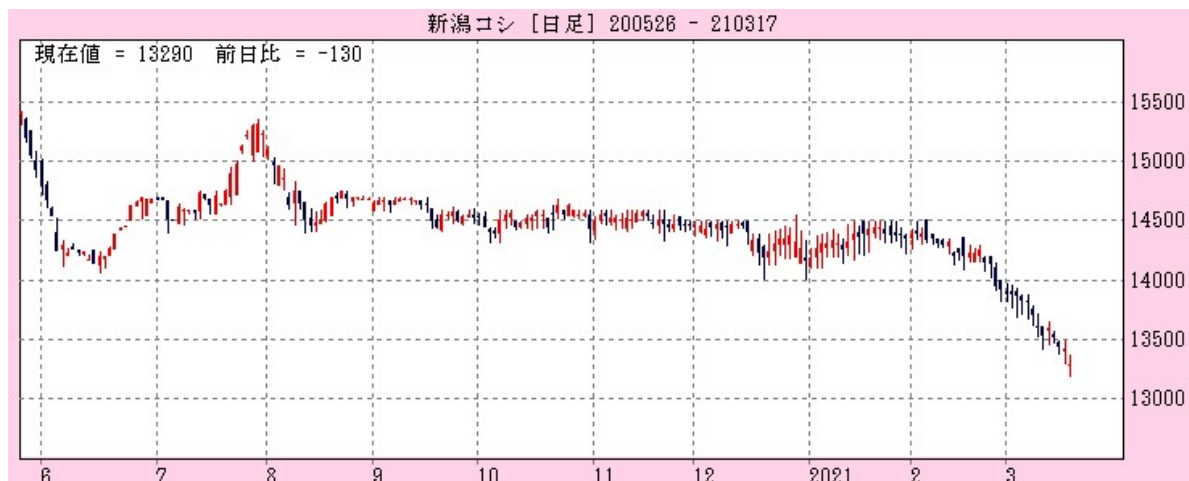
月2回のお米

コメ市場に関する情報がここに凝縮されています。
毎月第2・第4木曜日 夕方発行



新潟コシヒカリ

発行日 : 2021/3/18



TOPICS 21年産コメに値下がり観測 備蓄米の落札額、大幅安に。卸は買い契約に慎重
日本経済新聞社 3月9日

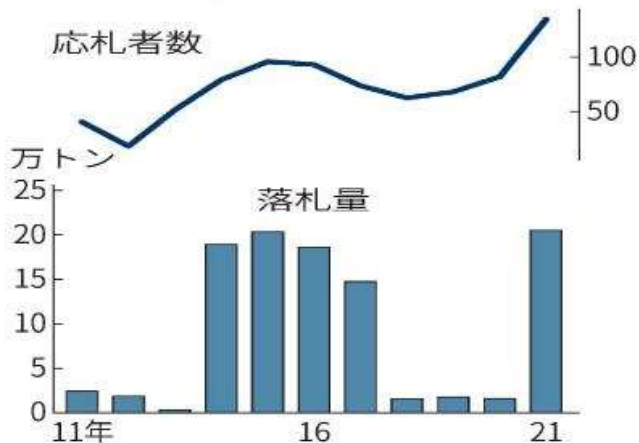
2021年秋収穫のコメ価格について、コメ卸やJAなどの間で値下がり観測が強まっている。政府による備蓄米買い入れの入札は今後の民間取引価格の安さを見越し、かつてなく激しい応札競争になるとともに落札価格も大幅に下がった。6年ぶりに卸値が下落した20年産から2年連続となる値下がり前提とした神経戦が早くも始まっている。

「落札しようとしたが、競争が激しく落とせなかった」。新潟県のある大規模農家は1月に実施された初回の21年産備蓄米入札を振り返る。例年初回は様子見も多いが、年間買い入れ量の99%が埋まった。入札参加者数は131と現行の収穫前入札制度になって最も多い一方、実際に落札できたのは30にとどまった。今月10日に結果公表予定の第3回入札の枠はほとんど残っていない。

初回の落札価格は非公表だが、複数の入札参加者によれば、前年比2000円程度下がり、60キロ（1俵）1万2000円前後の地域が多いようだ。この秋の米価が下がるとみた入札参加者の間で、異例の価格競争となった。

大きく動いたのはJAグループだ。全国農業協同組合連合会（JA全農）の関係者は「昨年まではいかに高く落札するかを中心に考えていたが、今年は量を確保しないといけなかった」と説明する。

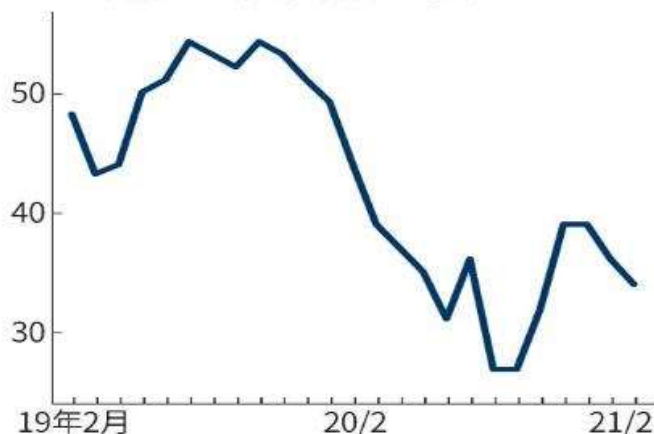
21年産の応札は初回から旺盛



(注) 各年産の初回入札の結果
(出所) 農水省

市場関係者の間で先安観が強いのは、21年産の生産量が需要を超えるとの試算が出ているからだ。JAグループによると、43道府県が定める21年産米の生産目安は合計696万トン強。前年の目安より17万トン程度少ないが、農林水産省が示す「需要に見合った生産量」（693万トン）を超える。米穀安定供給確保支援機構の2月の調査でも、向こう3カ月の米価水準の見通し判断DI（動向指数）は34と中立の50を大きく下回る先安観を示す。20年産の卸値の値下がり幅は前年比5%。備蓄米の落札価格と同じ比率で値下がりすると仮定すると、21年産の下落幅は1割を超える。

足元で先安観が強まる



(注) 向こう3カ月の価格見通し判断DI。
0に近いほど先安観が強い

(出所) 米穀機構

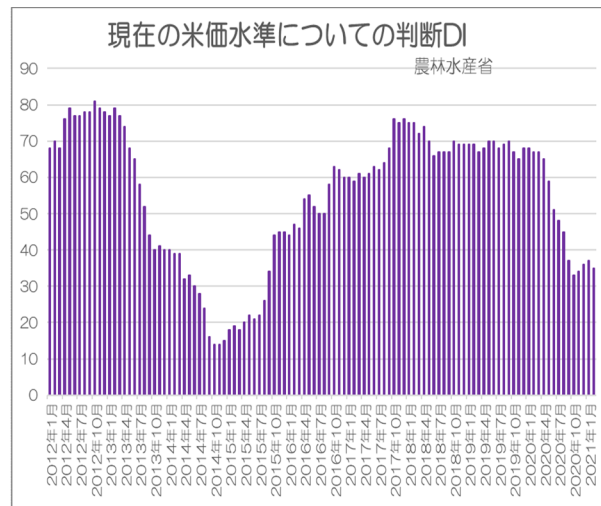
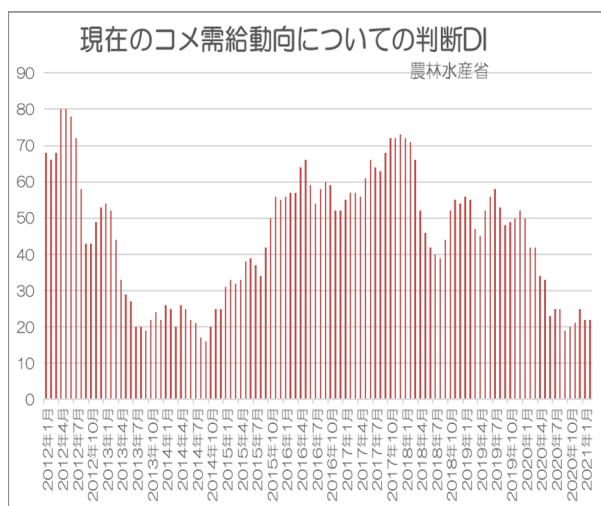
こうした先安観を踏まえ、JAなどから仕入れる立場のコメ卸などは買い入れに慎重になっている。「JAグループから前年と同じような価格設定で田植え前の契約の案内が来たが、その価格より下がるのは明白。今決めるメリットはない」（コメ卸）。中食業界などでつくる日本炊飯協会（東京・豊島）も、事前契約は慎重に判断するよう会員に推奨している。

米価急落を避けるため、農水省は過去最大級の転作補助金を用意し、JAグループも飼料用米などへの転換を呼びかける。過度な需給調整による価格の下支えは需要減を加速させる。価格下落をどこまで許容できるのか、18年に減反（生産調整）を廃止した意義も問われている。（北川開）

TOPICS コメの需給DI.

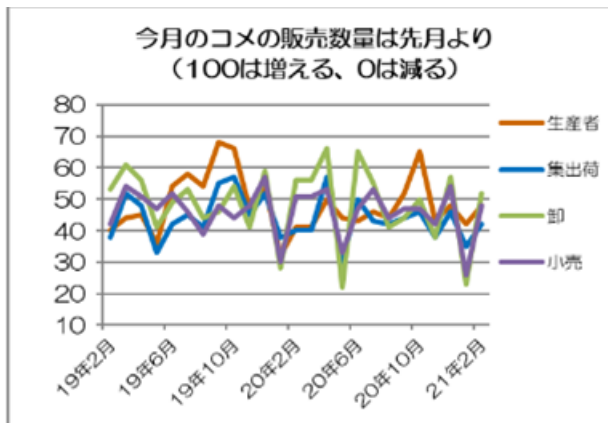
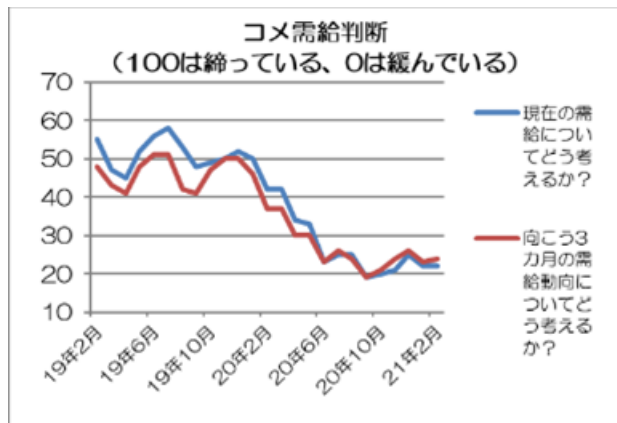
農林水産省が公表したコメレポート3月号によると、2021年2月の主食用米需給の現状判断DI（動向指数、100に近づくほど逼迫）は前月と変わらずの22ポイントだった。向こう3カ月の見通し判断DIは同+1ポイント高い24ポイントとなった。昨年6月以降、同数値は9カ月連続で30ポイント以下で推移している。

一方、米価水準の現状判断DI（100に近づくほど高いとの見方が強い）は前月から▲2ポイント低い35ポイントだった。4カ月ぶりに低下に転じた。中立の50を依然として大きく下回っている。向こう3カ月の見通し判断は34ポイントとなり、前月の36ポイントから▲2ポイント低下した。



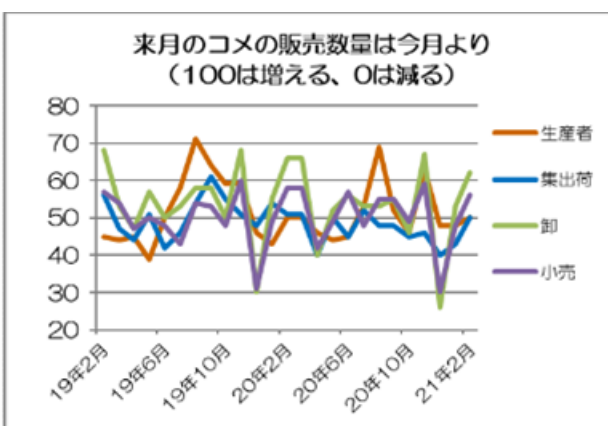
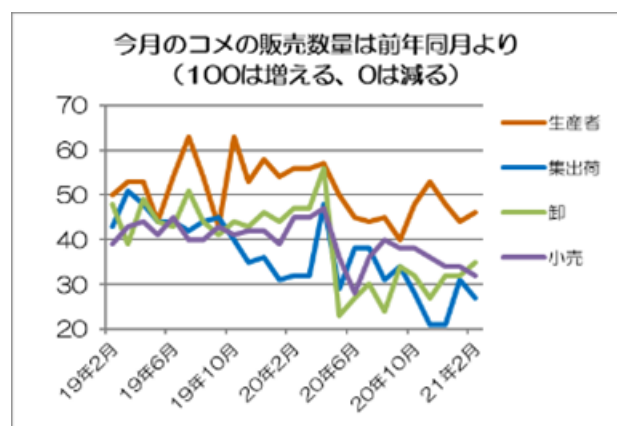
コメの需給は緩んでいる

2月の販売数量は1月と同じ



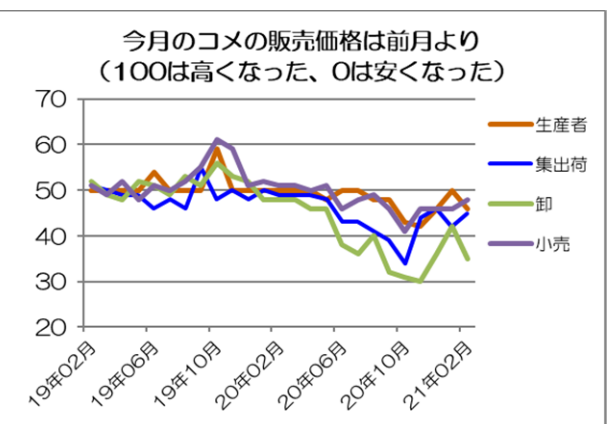
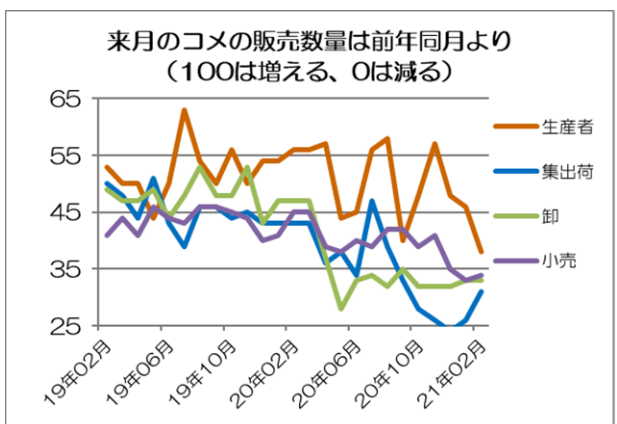
2月の販売数量は昨年2月より少ない

3月の販売数量は2月より多い

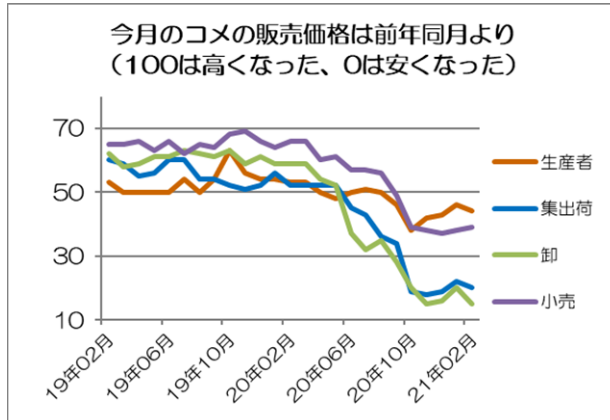


3月の販売数量は昨年3月より少ない

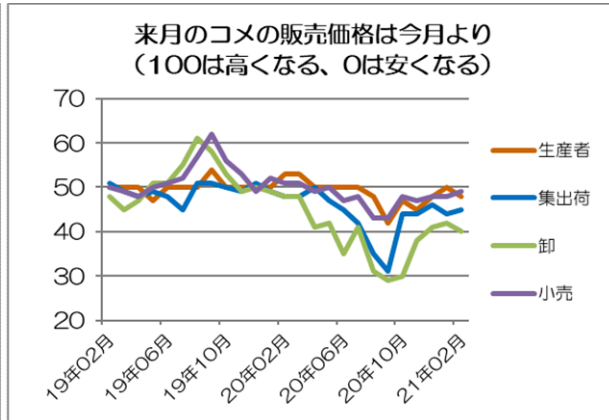
2月の販売価格は1月より安い



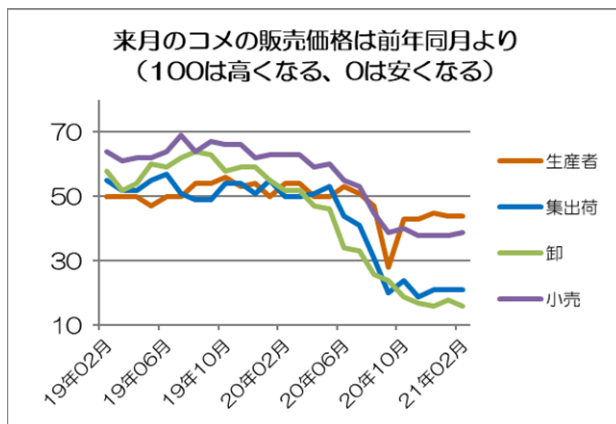
2月の販売価格は昨年2月より安い



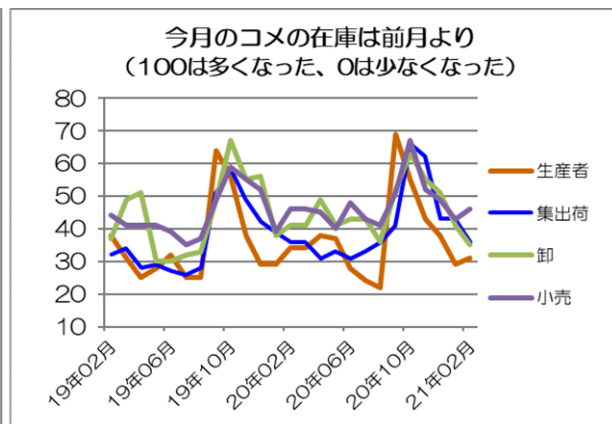
3月の販売価格は昨年2月より安くなる



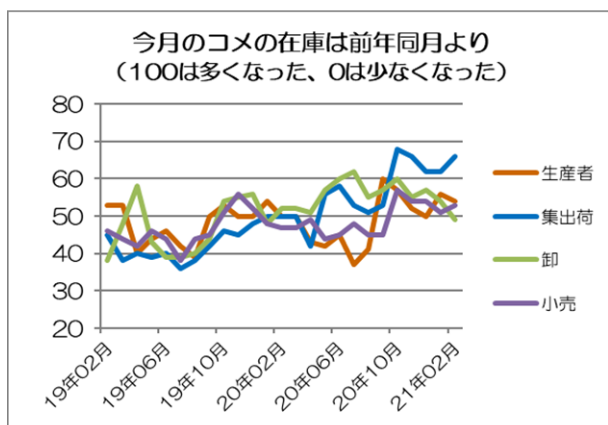
3月の販売価格は昨年3月より安くなる



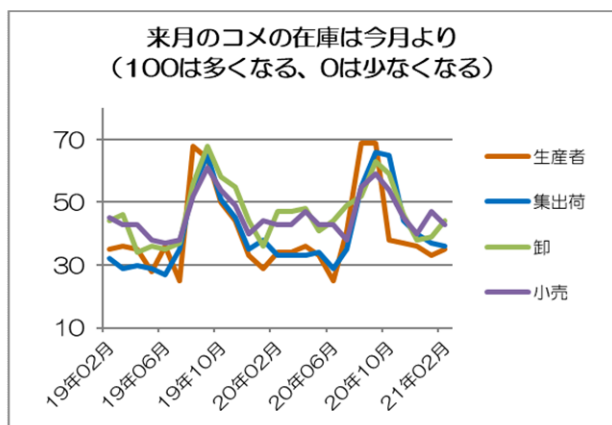
2月のコメの在庫は1月より少ない



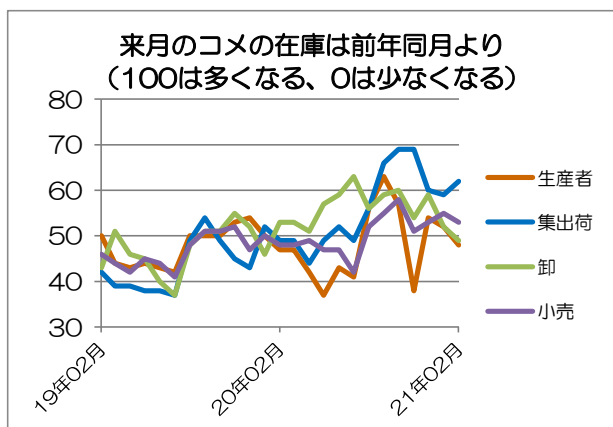
2月のコメの在庫は昨年2月と同じか多くな



3月のコメの在庫は2月より少なくなる



3月のコメの在庫は昨年3月とほぼ同じ

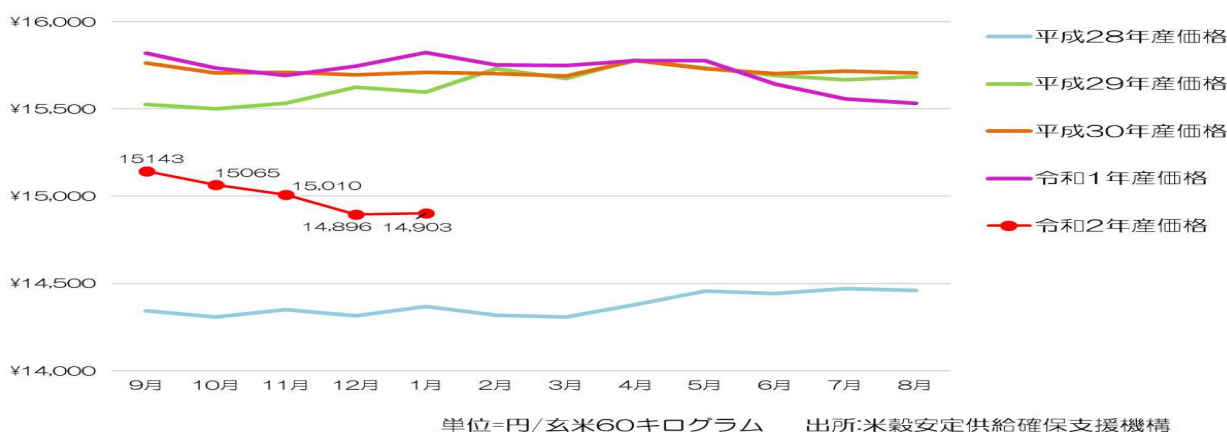


TOPICs 相対取引価格の前年同月比は、マイナス幅が拡大

農林水産省が公表したコメレポートによると、2021年2月分の「米の相対取引価格（出荷業者）」は玄米60kg当り1万4903円となり、前月比7円高、前年同期比921円安となった。前月比では小幅に戻したものの、前年同期比のマイナス幅は拡大している。

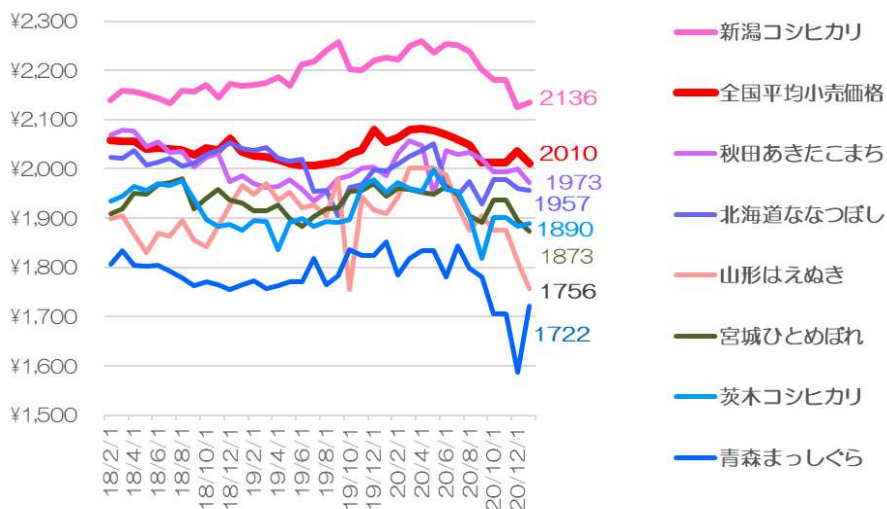
また過去3年間の平均である1万5710円との比較でも807円安となっており、比較的高い水準であった2017～2019年産との価格の乖離が広がっていることを示している。

コメの相対取引価格の推移（出荷業者の全銘柄平均価格）



TOPICs コメ小売り価格は地域やブランドによって異なる

5キロ入り銘柄別コメ小売価格



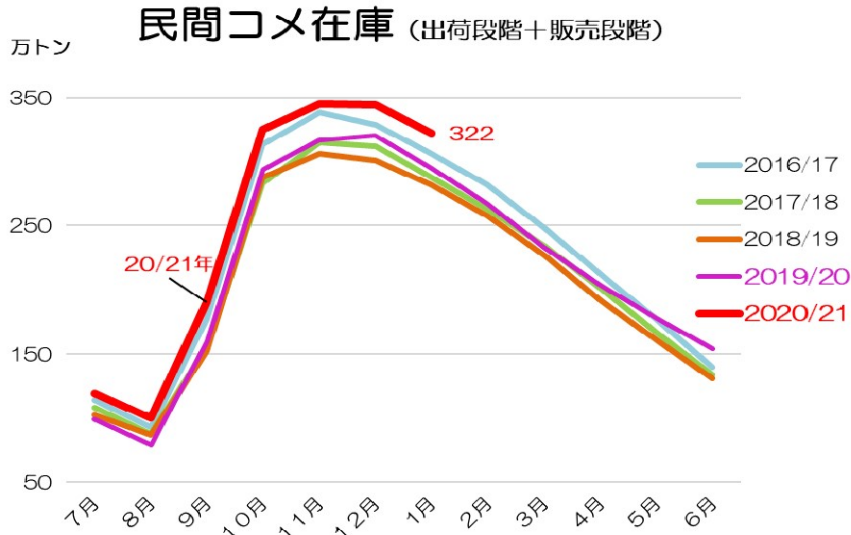
農林水産省がまとめた12月の「5kg入りコメ小売価格の全国平均価格」は、2010円で前月の2036円から▲26円値下がりした。

銘柄別では大きく下落した茨木コシヒカリが上昇に転じた一方、山形はえぬぎが大きく値下がりするなど、さまざまである。

新潟産コシヒカリは下落に歯止めがかけられた。

(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づき農林水産省が作成

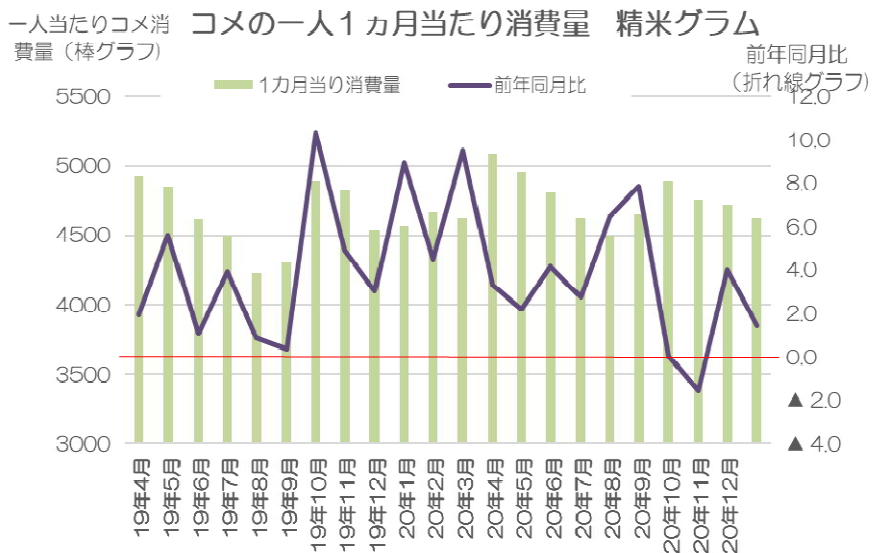
TOPICs 民間コメ在庫は前年同期比・過去5年間の平均を上回る



出所：農林水産省「コメ・マンスリーレポート」

農林水産省がまとめた20/21年産の1月の「民間コメ在庫（出荷及び販売段階における民間在庫）」は、322万トンで、前月から▲25万トン減少した。前年同月比は+27万トン多く、在庫水準が高いことを示している。過去5年間の平均297万トンとの比較でも25万トン上まわっている。在庫水準は引き続き、過去の実績と比較すると多い水準である。

TOPICs 米の1人1ヵ月当たり消費量は前月比減少だが、前年度比は増加

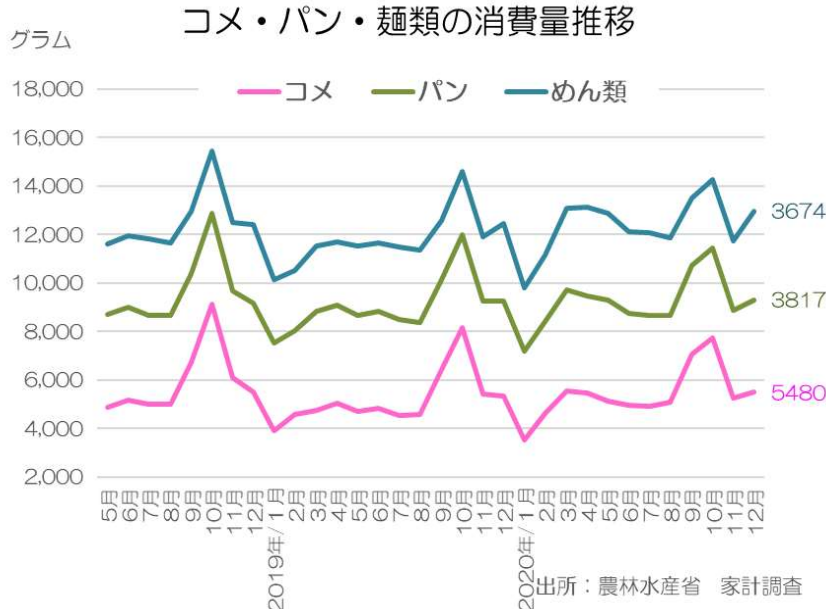


出所：米穀機構「米の消費動向調査」

農林水産省がまとめた1月の「米の1人1ヵ月当たり消費量の推移」は、4,626グラムで、前月から▲92グラムの減少となった。

しかし前年同月は+62グラム（1.4%）のプラスとなった。対前年同期比は、20年12月に一時的にマイナスとなったものの、19年4月以降プラスが続いている。

TOPICs 「コメ・パン・めん類の購入数量」のうちコメは前年同月比プラスに転じる



農林水産省がまとめた「コメ・パン・めん類の月当りの購入数量」によると、12月は、めん類、パン、コメ共に前月から増加した。

コメは5,480グラムで、前年同月比+130グラム、+2%となった。コメの前月比は、10月、11月のマイナス後、12月は3カ月ぶりにプラスに転じた。

パンは3,817グラムで前年同月比▲2%。

めん類は3,674グラムで前年同月比+15%。

TOPICs コメ「食味ランキング」公表 全国53銘柄が最高の「特A」評価 3月4日 by NHK

去年、生産されたコメの味などを審査する「食味ランキング」の結果が公表され、全国の53銘柄が最高の「特A」の評価を受けました。コメの食味ランキングは、農産物などの品質や安全性を評価している日本穀物検定協会が毎年、生産されたコメの味や香りなどを審査して5段階で評価しています。

去年、生産された全国154銘柄のコメの評価が4日に公表され、全体のおよそ3分の1にあたる53銘柄が最高の「特A」と評価されました。

前の年に比べて1銘柄減りましたが、3年連続で50以上の銘柄が「特A」となりました。

このうち、北海道のゆめぴりかは10年連続、新潟県魚沼産のコシヒカリは3年連続の「特A」です。

また、愛知県の三河中山間産の「ミネアサヒ」が愛知県として初めて特Aに選ばれるなど、前回一つ下の「A」や、その下の評価だった14銘柄が「特A」に昇格しました。

一方、8年連続で「特A」だった秋田県県南産の「あきたこまち」のほか、宮城県産の「ひとめぼれ」など15銘柄が「特A」から「A」になりました。

日本穀物検定協会の井出道雄会長は「各県の努力で特Aが数年前に比べて飛躍的に増え、その傾向は続いている。個々の銘柄について見ると、特AとAの出入りが激しくなっていて、最近の気候変動の影響も考えられる」と話していました。

「特A米」産地銘柄数



今後の見通し

新型コロナウイルスの影響を受けて、外食需要が減少しており大阪堂島商品取引所の新潟コシヒカリの価格も2月以降一段安となっているが、ワクチン接種の普及に伴い、緊急事態宣言もいずれ解除されるものと思われるので、米価も回復する時期が近いと思われる。ただコメの在庫は例年より多く、21年度産の落札価格は下落している。しかし入札は多く今後外食需要が復活すれば、以前の水準に戻るのではないと思われる。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：



株式会社コモディティー インテリジェンス

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310

会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692

メールアドレス：kondo@commi.cc